

2025 年度

学校評価シート（自己評価）

年度末評価 | 2025 年度実績

施設類型	幼保連携型認定こども園	園名	川越なかよし幼稚園
評価期間	2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日	評価主体	園長・副園長・主任・職員

1. 園の教育・保育理念

「みんなと、せかいと、なかよしに」を基本理念とし、一人ひとりの人格と人権を尊重しながら、安心できる関係と環境の中で、自分を信じ、友達と関わり、自ら考え、表現し、挑戦する子どもを育む。

本園が目指す子どもの姿

- 自分を信じ、自分を大切にする子
- 友達に優しく、互いに助け合える子
- 自分の意思を持ち、自ら行動する子
- 感じたことや考えたことを、自分なりに表現することを楽しむ子
- 失敗を恐れず、試したり考え直したりしながら取り組む子

2. 2025 年度の評価方針

本評価では、全体的な計画及び年間・月・週・日の指導計画、保育記録、会議・研修記録、安全・保健関係記録、保護者との対話等を基に、2025 年度の教育・保育及び園運営を振り返る。子どもの到達度だけでなく、保育者が子どもの姿をどのように捉え、環境や援助を工夫し、改善につなげたかを重視する。

評価結果は、成果を過大に示すためのものではなく、概ね達成した点と、2026 年度に組織的に改善すべき点を明確にするために用いる。評価の根拠が十分でない事項は課題として扱い、次年度の計画、研修及び園内体制へ反映する。

A	十分達成	B	概ね達成・継続改善
C	取組中・成果は限定的	D	取組が不十分

3. 重点評価項目と年度末自己評価

評価項目 1 子ども中心の教育・保育とカリキュラム・マネジメント

年度末評価：B

目標	全体的な計画を起点に、子どもの姿、ねらい、環境構成、援助、振り返りがつながる指導計画を作成し、実践の改善につなげる。
評価指標	各年齢の計画が子どもの実態に即している／記録を基に職員間で対話している／振り返りが次の計画に反映されている。
年度内の主な取組	日々の保育記録、学年・部門での話し合い、指導計画の振り返りを通して、子どもの興味、つまずき、友達との関係、保育者の援助及び環境構成を検討した。
年度末評価の根拠	子どもの姿を基に保育を振り返り、次の活動や環境へつなげる実践は概ね行われた。行事や活動の実施自体を目的にせず、子どもの経験の過程を捉えようとする意識も見られた。一方、記録の内容や、振り返りを次の指導計画へ反映する程度には職員・学年間の差があり、園全体の仕組みとしては十分に定着していない。
2026 年度への引継ぎ	全体的な計画と年齢別の指導計画を再点検し、記録を「子どもの姿→保育者の理解→環境・援助→次の見通し」の順で活用する。短時間でも継続できる記録と対話の方法を整え、カリキュラム・マネジメントを園全体で進める。

評価項目 2 一人ひとりの尊重と、集団生活を支える保育

年度末評価：B

目標	個々の思いや発達を尊重しながら、友達や保育者と関わり、活動や集団生活へ参加する経験を丁寧を支える。
評価指標	子どもの「やりたくない」を直ちに否定しない／放任にも強制にも偏らない／対話、見通し、選択肢、環境の工夫を通して参加を支えている。
年度内の主な取組	子どもの思いや発達、家庭状況を踏まえた個別の援助を行うとともに、遊び、生活、行事等において、友達や保育者と関わりながら集団へ参加できるよう支援した。

年度末評価の根拠	子どもの気持ちを受け止め、安心できる関係を基盤に援助する姿勢は概ね共有された。個別に待つことや参加方法を工夫する実践も見られた。一方、個々の思いを尊重することと、生活や活動への参加を支えることの判断には職員差があり、待つだけになる場面、反対に指示が先行する場面が課題として残った。
2026 年度への引継ぎ	「尊重するか、参加させるか」の二択にせず、見通しを伝える、参加方法を選べるようにする、少人数からつなぐ、気持ちの切替えを助ける等の実践例を園内研修で共有し、個別支援と集団指導の両面を高める。

評価項目 3 生命・安全・健康と子どもの人権の保障

年度末評価：B

目標	事故、災害、感染症、食物アレルギー、不適切な保育等のリスクを組織的に予防し、発生時には迅速に報告・対応・検証する。
評価指標	安全計画・保健計画・BCP・各マニュアルが実態と整合している／人数・所在確認が徹底されている／事故・ヒヤリハットを再発防止へつなげている／人権擁護を継続的に確認している。
年度内の主な取組	避難訓練等の安全教育、日常の健康・衛生管理、人数及び所在確認、事故・ヒヤリハット発生時の報告と再発防止に取り組み、子どもの生命、安全、健康及び人権を園運営の最優先事項として確認した。
年度末評価の根拠	日常の安全確認や訓練を継続し、事故等が生じた際には報告、保護者への説明、原因の確認及び再発防止を行った。重大なリスクを組織的に捉える基盤は維持された。一方、安全計画、保健計画、BCP 及び各種マニュアルを相互に関連付け、訓練・事故後の検証結果を改訂へ確実に反映する仕組みには改善の余地がある。
2026 年度への引継ぎ	安全計画、保健計画、BCP、虐待・不適切保育防止関係文書等を相互に照合し、年度、責任者、連絡先、役割分担及び実施内容を実態と一致させる。訓練や事故後の評価、改訂日及び改善内容を記録する。

評価項目 4 職員の専門性、チームワークと人材育成

年度末評価：C

目標	経験年数や役割に応じた育成を行い、職員が一人で判断や困難を抱え込まず、相談・協働・振り返りができる組織をつくる。
評価指標	新人・若手に担当者と育成目標がある／報告・連絡・相談が機能している／個別支援と集団指導の両面を学んでいる／管理職・主任への過度な集中を防いでいる。
年度内の主な取組	園内外の研修、職員会議、学年・部門での話し合い、日常のOJT 及び個別面談を通して、命・安全・健康、チームワーク、集団指導、個別の見取りに関する専門性の向上を図った。

年度末評価の根拠	必要に応じた助言、面談及び研修は行われ、職員同士が相談しながら対応する場面も見られた。一方、経験年数や役割に応じた育成目標、指導内容、成長確認の記録は十分に標準化されておらず、個々の力量や管理職・主任の対応に依存する面が残った。組織的な人材育成という点では成果が限定的である。
2026 年度への引継ぎ	新人・若手を中心に、役割と経験年数に応じた育成目標、観察事項、助言内容、成長及び次の課題を簡潔に記録する。主任や管理職だけに集中させず、学年・部門内で育成を分担し、良い実践も具体的に共有する。

評価項目 5 家庭・地域との協働と、0 歳から就学までの切れ目のない支援

年度末評価：B

目標	保護者との対話、地域子育て支援、乳児部と幼児部の連携、幼保小接続を通して、子どもの育ちを継続的に支える。
評価指標	保護者へ結果だけでなく育ちの過程を伝えている／相談しやすい関係がある／つどいの広場等が地域ニーズに応えている／乳児から幼児、幼児から小学校への情報と育ちがつながっている。
年度内の主な取組	送迎時、面談、連絡等を通じて保護者と子どもの育ちを共有した。つどいの広場等による地域子育て支援、乳児部と幼児部の情報共有、就学に向けた小学校との接続にも取り組んだ。
年度末評価の根拠	保護者との日常的な情報共有と相談対応、地域子育て支援を継続し、家庭と園が子どもの育ちを共有する機会を確保した。一方、個別に寄せられた意見や相談を園全体の改善へ反映する仕組み、0～5 歳の計画の連続性、幼保小接続で育てたい力の共有は、さらに明確にする必要がある。
2026 年度への引継ぎ	保護者の意見・相談から見える共通課題を整理し、園運営の改善へ反映する。乳児部・幼児部の記録と計画をつなぎ、幼保小接続を技能面だけでなく、自立心、対話、協同性及び助けを求める力の育ちとして捉える。

4. 年度末評価の総括

評価項目	年度末評価	2026 年度の中心課題
1 カリキュラム・マネジメント	B	記録・対話・指導計画の接続
2 個と集団を支える保育	B	参加を支える具体的援助の共有
3 安全・健康・人権	B	計画と実態の整合、検証記録
4 専門性・チーム・人材育成	C	育成の標準化と負担分散
5 家庭・地域・接続	B	保護者の声と 0～5 歳の連続性

総合年度末評価：B（教育・保育及び園運営は概ね安定して実施できたが、2026 年度に組織的な改善が必要）

2025 年度は、子どもの主体性と人権を尊重する保育観を土台に、日々の保育、記録、会議、研修、安全管理及び家庭・地域との連携を継続した。教育・保育及び園運営は概ね安定して実施できたが、理念を各職員の具体的な援助、指導計画及び人材育成へ一貫して落とし込む点には差があった。2026 年度は、新しい取組を増やすことを優先せず、既存の計画、実践、記録、評価及び改善をつなぐ仕組みを整える。

5. 2026 年度へ引き継ぐ重点課題

No.	重点課題	具体的な取組方法
1	計画と実践の接続	全体的な計画、年間・月・週・日の指導計画、保育記録、自己評価の関係を整理し、同じ子どもの姿と課題がつながるようにする。
2	個と集団を支える共通実践	「尊重か指導か」の二択にせず、対話、見通し、選択肢、環境構成、仲立ち等の具体的援助を事例で共有する。
3	安全・人権に関する文書と実態の一致	安全、保健、BCP、虐待・不適切保育防止等の計画を更新し、責任者、連絡先、実施記録、改訂履歴を一致させる。
4	人材育成の仕組み化	新人・若手の育成目標、観察、助言、成長、次の課題を継続的に記録し、複数職員で支える。
5	評価の根拠を残す	「できた」と書くだけでなく、子どもの姿、職員の取組、記録、保護者の声、安全記録等を根拠として年度末評価を行う。

6. 2026 年度における改善状況の確認方法

- 各学年・部門の年間指導計画及び期ごとの自己評価から、2025 年度の課題が 2026 年度の計画へ反映されているか確認する。
- 保育記録、園内研修記録及び職員会議記録から、子どもの見取りと援助、職員間の対話及び実践の変化を確認する。
- 事故・ヒヤリハット・苦情・相談等の記録を定期的に分析し、再発防止及び改善状況を確認する。
- 保護者・地域から寄せられた意見や相談を整理し、園運営及び子育て支援への反映状況を確認する。

- 本評価で示した 2026 年度への引継事項について、実施の有無だけでなく、子どもの姿、職員の実践及び組織運営への影響を確認する。

評価責任者署名

園長		副園長	
主任		評価日	2026 年 3 月 31 日